

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200077		
法人名	合同会社 聖恵会		
事業所名	恵みハウス		
所在地	岐阜県関市太平台14-5		
自己評価作成日	平成27年11月 5日	評価結果市町村受理日	平成28年 3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvCd=2190200077-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成27年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣人愛の理念に基づき地域密着の介護施設として周りの皆様に支えられ5年目になりました。地域行事として10月には関市のグループホームの運動会へのお誘いを受け小規模多機能施設からも応援に参加してもらい、優秀賞をいただきました。殆ど寝たきりの方も参加できて玉入れに挑戦され笑顔が見られ喜びました。お盆や敬老の日には外食ツアーでお好きな和食に箸が進み、地域の文化祭では中学校の体験学習で来た中学生と作った廃品利用のフレームや袋 花瓶、目の不自由な方の編み物を出品させていただき、その作品展を皆さんで見学して帰りにスーパーのフードコーナーで好きなおやつを食べて帰りました。また地域の避難訓練や施設の防災訓練には近所の方や自治会の役員さんが参加して下さいました。今後も地域に根差す介護施設として努力していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念「隣人愛」を見事に体現している。外部評価当日、快晴の空の下利用者の誕生日外出に同行体験することを許された。誕生日外出のサプライズとして、まずは隣人(地域)の幼稚園を訪問し、園庭を会場に利用者が手作りの品をプレゼント、園児からはお礼の歌がプレゼントされた。利用者にとっては、自分の子どもや孫の幼児時代を回想する、どこか懐かしく、優しい一場面であった。次は、誕生会の会場である和食店への移動である。主役の利用者を祝う他の利用者、職員、地域のボランティアの面々、総勢20名余が席に着き、職員が持参した携帯用ピアノに合わせて皆で“Happy Birthday To You”を合唱した。続いて、個々のリクエストの和食メニューに舌鼓を打ち、職員も一緒に楽しみつつ利用者に寄り添い、利用者の今日が宝物となるような支援を展開していた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	私どもの仕事の礎は「隣人愛」であること、仕事そのものが隣人に仕えること、この基本を忘れないで実践していくことから外れないようにしたいと申し合わせている。	理念の骨子「隣人愛」の実践は、ホームの行事や利用者の外出に多くの家族、地域のボランティアが参集することからもわかる。様々な場面で、職員、家族、地域住民が協力して愛ある支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の催し事や行事などよく声をかけて下さり、実際利用者様をお連れすると積極的に手伝って下さり利用者様も顔なじみになっている。	幼稚園からのホーム訪問に加え、今年は別の幼稚園に利用者さんと訪問し、利用者手作りのゴミ箱や台拭きをプレゼントする交流をスタートさせた。ホーム行事や外出に多くの地域住民が協力し、利用者を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回は外食にお連れしているので周りの方たちに認知症であっても少しのサポートで普通に出かけられることを理解してもらえたらと願う。また施設長が認知症サポーターキャラバンメイトとして活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は特に運営推進会議でも示した通り、年間の職員の研修計画を立て研修後のレポート提出で現場に活かせるよう配慮していき、一部の外国籍職員には日本語は介護記録に書いてもらっている。	年6回の会議は家族、地域、行政の参加を得ている。写真を駆使した資料を基に、分かりやすく伝えるよう努めている。議題は災害対策、外部評価結果、外出支援と具体的に提示し、参加者の意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法改正などで市役所にはよく尋ねておしえてもらっている。運営推進会議の折にでも気軽に教えてもらっているので有難く思っている。	運営推進会議には、市の担当者、地域包括支援センター職員が毎回出席し、行政の立場で会議メンバーの質問に答えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の安全を第一とし、家族の理解を得て毎日の行動を日々のミーティング等で共通理解をしていき、介護方法を探っている。夜間職員が一人対応の時は施錠をしている。	外国人介護職員の雇用を積極的に推進し、管理者やベテラン職員は拘束防止のため、注意喚起を促し指導している。利用者の不穏な状態には穏やかな言葉かけに工夫し、利用者の笑顔を取り戻す支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隣人愛を基としているので現場のストレスが利用者様にかからないよう時々職員の話も聞いている。困難な問題は共通の問題として管理職も一緒に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が1名おられるが決してオールマイティではない事もあり入院後の医療処置の決定は近い親族の方にお問い合わせしているし、職員も学ばせてもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明と了解は元より救急時の対応や希望の病院を伺い、不安や疑問点には当施設ができることできないことを説明し了解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とは面会時やメールで利用者様の様子を伝えたり、要望を伺っているし、こちらの提案も聞いて下さっている。ご要望にはできないことははっきり伝え了解を得ている。	ホームの畑の芋ほり等の行事に参加し、親交を深めて気兼ねなく意見の言える関係作りに努めている。「家族の来訪時に職員が気づいてくれない」との意見には、玄関のドアホンを改修して対処した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は医療職ということもあり、常に現場に入り、困難な場合は一緒に考えている。外国籍職員が半分以上で文化常識言葉使いの機微の理解が難しくお互い努力している。	日本語の理解に苦しむ外国籍の職員に対し、実質的な法人代表が様々な方法を貸している。訪問調査当日も、調査終了後に「職場での学び」と題して、外国籍職員向けの勉強会が開かれた。	「教えてもらう」ではなく、「自ら学ぶ」姿勢が重要。きらきらと美しく輝く彼女たちの眼のように、彼女たちの心にも「自己啓発」の火を着けて欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法にのっとり人員配置は手厚くしている。有給、産休、育休をとる機会を与えている。様々な職員がいて不公平にならないよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外国籍の職員が多く、文化 常識 言葉使いなどの違いはあるが優しさは伝わることを覚えているようで励みになっている。年間の研修計画で全員順次研修を受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所やケアマネ会などいろいろな研修の誘いを受けているのでできる限り参加して横のつながりを得ている。今年また地域密着型の研修会も増えて情報交換もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの過程で中々心の深い部分までわかりにくい認知症と言う病気の為に自分が頼りなく不安でいっぱいでおられるので柔らかに対応するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まず経済的なこと、将来の不安でいっぱいでおられ、的確に答えられることは伝え、面会時などご家族の話を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな情報も温めておき、本当のニーズは何なのか、一番気にされていることは何なのかいつもサービス導入時はご本人の様子や現場の声とご家族の声や医療面のことなど情報をためている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に洗濯物たたみをしたり昔の生活の知恵を教わったり、職員は聞き役にまわっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方でも時間があれば面会に来て下さるご家族の方もおられたり、面会時に本人が寒くないようにと防寒着をどっさり持ってこられたりで、離れていても家族の絆を感じる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の知り合いの方がハーモニカ、職員がギターで寝たきりの方の居室を生演奏で回られ、自然と利用者様の口が動き、職員共々感動したことがあった。	連結した平屋の構造の中で、グループホームと小規模多機能事業所の利用者同士が日常的に交流している。小規模多機能事業所の泊まりの利用者がホームに移動し、馴染みの利用者と朝食を共にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症が進み、独語が増えた利用者様の相手をして掛け合い漫才の様で笑いを誘う場面もあり、職員も中に入って相手をして楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	「おばあちゃんの一周忌です。お世話になりました」とあいさつに來られたり、事あるごとに施設を尋ねてくださる。嫁様のお母様の将来当施設利用希望についての話を伺ったことはある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寝たきりになっても楽しく暮らしたい、そんな思いが伝わる利用者様にグループホームの運動会や外食にお連れした。喜ばれて体に無理はなかったか心配したが変わりなかった。	利用者と職員が連れ立って、市内の幼稚園を訪問して手作りのゴミ箱や台拭きをプレゼントした。利用者の作った作品には、「子どもたちが健やかに育って欲しい」と願う利用者の思いが詰まっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	経口摂取ができるようになった方がだんだん困難になり、ベットとリビングでの生活になったが家族様が頻回面会に來られ、ご家族とのこれまでの思いに浸っておられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	90代の女性が緊急入院され、今までリビングで新聞を眺めながらお喋りされていたので寝たきりにならないように職員間で情報共有して介護に当たっている。起きる意欲が出てきている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	教会の礼拝に行くことを楽しみにしていた98歳の女性が教会の方の支援で行けたが体調が思わしくない。そこで日々誰でも知っている讃美歌と一緒に歌う時を持つプランにするよう話し合った。	試行錯誤を繰り返しながら、利用者の思いを叶える介護計画の作成が進んできている。	一人、また一人と、“思い残しの無い人生”を支援する介護計画の作成が増えてくることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	外国籍の職員が多く記録からだけの情報ではつかみにくいため現場の情報を得るべく歩み寄り努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	妄想の激しい方への支援は難しいが、職員間で何にこだわっているかを掴もうとしている。拒否の激しいときは家族様の協力も戴いている。職員が寄り添える余裕がほしい所である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の民生さんや自治会長さんが情報を下さり、行事への誘いや実際移動の際のお手伝いをして下さっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	クリニック併設と言うこともあり、重度の利用者様が多く家族様やご本人の安心の基となっている。日々のバイタルチェックや異常のある時は院長先生の指示がいただけるので有難いです。	法人登記上の代表(理事長)が隣接地でクリニックを開いており、医療連携の体制は万全である。豊富な看護師経験を持つ施設長(実質上の代表者)の存在も、利用者や家族にとっては大きな安心材料となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のクリニックや施設長自体がナースであることから常に利用者様の状態を掴み、現場はバイタルの安全圏を教えられ、医療職も注意している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	クリニックドクターからの紹介状や介護情報を提供することはもちろん時々見舞い、家族様や病院の相談員さんからも情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用時にご本人、特にご家族に救命救急についての同意書を取り、ドクターの指示を受けながら介護にあたっている。家族様とは綿密に連絡を取りあっている。またヘルパーの医療行為ができない事を同時に理解してもらっている。	医療面に強い介護事業所であり、重度化や終末期の支援にも対応できる力量を持っている。入院を必要とする医療行為が無い限り、ホームで最期まで看取る方針を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まず併設のクリニックドクターに報告し、現場にいる職員(ナース、ヘルパー)が救命救急処置をする。ミーティングでは予想される危険についていつも話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	11月には消防署立会いのもと通報訓練、利用者様の安全誘導訓練を実施した。10月には地域の防災訓練に利用者様と共に参加した。	消防署の「高齢者・独居者避難場所」に登録し、大雨によって近くを流れる長良川の水量増加時には、地域高齢者の受入りに協力した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様情報に守秘義務があるのはいつも申し合わせてある。気を抜いたときに出やすい差別語や不快語が出ないように職員間で注意している。	利用者の呼称は苗字に「さん」づけを基本にし、利用者の接遇は丁寧で、心から尊敬の念を持って対応している。支援は利用者に了解を取って進め、職員の都合や独走で行うことは全くない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いを一番わかっているのは現場の介護職であり、独語が多い方が「○○さん」とよく呼んでいる。亡くなった方なのでその方の事を話題にお相手をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現場の職員が利用者様のペースをよく知っている。介護職として利用者様のマイナスとにならないよう誘導している。たとえば寝たきりにならないよう起きている時間を持つことや立位を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に床屋さんにお連れしたり、寝たきりの方は訪問の美容師さんをお願いしたりしている。朝起きた時に自分で整容できない方には必ず綺麗にして時に髪飾りをつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食には懐かしい思いを聞かせてもらったり、食べ物の話には時に花が咲く。利用者様の好みが変わってくる。	利用者の誕生会が市内の料理店で開かれた。職員が演奏する携帯ピアノ(?)に合わせ、20名を超える参加者が「Happy Birthday To You」を合唱して利用者の誕生日を祝った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療依存度の高い方が多くドクターやナースからの指示で摂食量や水分摂取量の記録報告したり、嚥下の心配な方にはトロミ対応にしている。また各利用者様の好みなど報告しあっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの意義は爽快感のみでなく誤嚥肺炎を防ぐという意味もあること等ナースから指示がある。胃瘻の方には特に大切で唾液で誤嚥を起こしやすいこと等強調している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄は誰しもが望むところであるがやむ終えずベット上での排泄、簡便処置の方もおられ、排泄管理表は必須でハウスは全員管理している。	訪問調査当日の「幼稚園訪問」と「誕生会外食」に同行した。利用者を伴っての長時間移動のため、事前に障害者用トイレ(車いす利用)のある場所が調べてあり、職員は手際よく排泄支援をしていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケアセンターもハウスもこぞってそれぞれのリーダーが責任を持って排便管理をしているとともに水分が不足しないようにチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人お一人の入浴の仕方や好みや拒否してもどうしたら入浴されるかを職員が悩んでいる。その方の好きな音楽を流している。今日入らなくても明日はいいかもしれないと気長に構えている。	利用者の意向を尊重し、入浴を拒否されても無理強いして入浴させることはない。声を掛ける職員を替えたり、入浴日をずらしたりして柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則21時消灯になっているが胃痙等で寝たきりの方が何人かおられ、不穏な方への対応に職員間で工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療職より薬の事については何度も注意がある。服薬時は最低3回確認して口の中を確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の行事へのお誘いで参加させていただいて、帰りに皆さんでスーパーに行きフードコーナーで好きなおやつを食べて帰所している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度の方が多く戸外にお連れできるのは数名であるが寝たきりの方でも日中起きてもらって日光浴をする時を設けている。一人の方は寝たきりでもグループホームの運動会に参加して玉入れをされた。	利用者が一同に大挙して外出する機会は減っている。それでも極力外気に触れる機会を作り、足の不自由な人は車いすに乗って、目の不自由な人は職員やボランティアに手を引かれ、外出支援を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持やケータイは遠慮してもらっている。ハウスは家族様からお金を預かり、床屋さんや美容院、医療費や薬代、その方の必要品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が多く、遠方でも来られる方もいる。ある方は定期的に遠くの妹様から絵手紙が届くのを楽しみにされている。目の不自由な方には市役所から点字の広報が届き楽しみにしておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間は小ざっぱりしているのがよい。利用者様の家族様や元利用者様の家族様が花などをたくさん持ってきて下さっているので玄関やホールに飾っている。	リビングは華美にならない、さりげない飾り付けとしている。掃除の行き届いた清潔な空間は、いずれも広く利用者は容易に安心して移動している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寝たきりにならないようになるべくリビングにお連れしてソファで過ごしてもらう時間をとっている。ただ疲れられないよう気を配っている。リクライニング車いすの方も離床時間を決めてリビングにお連れしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お孫さんの写真や香りのよいお花や旅行の置物などを所狭しと飾っておられる方もあるし、誕生祝に息子様がお花をプレゼントされたり、亡くなったご主人の写真を置いたりしておられる。	利用者がこれまでの生活を実感できる居室づくりを支援している。家族からのプレゼントやご主人の遺影等が置かれ、利用者は容易にこれまでの暮らしを思い出すことができる。	中には持込み量の少ない居室もあった。家族の理解を求め、利用者の馴染みの品や調度品、趣味の小道具等を揃えることを望みたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、リビング、また手すりの位置など全盲の方がおられるので空間を認識していただけるようテーブルや腰掛の位置など変えないようにしている。		